

## 格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 野村 充)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『A』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
  - (1) 富山県に本店を置く資金量約1.2兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、充実した自己資本、比較的高い収益力などを反映している。貸出金利回りへの下押し圧力が続いているが、フィービジネスの増強や業務効率化などへの取り組みにより、当面一定の収益力を維持可能とJCRは見込んでいる。有価証券運用にかかるリスクは管理可能な範囲内で推移するとみているが、今後も動向をフォローしていく。
  - (2) 21/3期のコア業務純益(投資信託解約損益を除く、以下同じ)は43億円。有価証券利息配当金の減収を主に前期比約2割の減益となったものの、ROA(コア業務純益ベース)は0.3%超と格付対比でみて良好な水準にある。貸出における競合は厳しく、また、過去に実行した利回りの高い貸出の返済が進むことで利回りへの下押し圧力は当面続くとみられる。そうしたなか、当行はフィービジネスを強化すべく営業態勢の強化を図り、預り資産販売やコンサルティング業務などで成果にも結び付きつつある。有価証券運用においては、利回りの高い資産への入替えを進めている。また、店舗態勢の見直しなど経費削減に向けた取り組みにも従前以上に力を入れている。22/3期第1四半期のコア業務純益は16億円と、これらの取り組みが寄与したことなどもあり前年同期比約4割の増益となった。
  - (3) 金融再生法開示債権比率は21年6月末で2%台後半と従前に比べて高水準となっている。景況感の悪化などを背景に債務者区分の引き下げが増加したことが影響したものの、21/3期の与信費用は30億円と、大口与信先のランクダウンに加え貸倒引当率が上昇したことなどから従前と比較し高水準となった。もっとも、業況の不芳な大口与信先に対して厚めの引当を実施していることなどを踏まえると、当面与信費用はコア業務純益で十分に吸収可能な範囲内で推移するとJCRはみている。
  - (4) 有価証券ポートフォリオは、株式や投資信託、為替リスクを取った外貨建債券など、比較的回りの高い資産の構成比が高い。価格変動のリスク量は資本対比でみて大きく、リスクテイクの状況を注視していく必要がある。もっとも、厚い資本や有価証券の含み益が、リスクのバッファーとなっている。
  - (5) 21年6月末の連結コア資本比率は12%台半ば。一般貸倒引当金などを控除した調整後でも、格付「A」の地域銀行の中で上位にある。貸出金残高増などによりリスクアセットが増加する可能性があるものの、内部留保の蓄積により一定の資本水準を維持可能とJCRはみている。

(担当) 大石 剛・清水 達也

6. 格付据え置きについて  
格付据え置きにつきましては、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先  
総合企画部 : 本島  
電話 076-424-1219